図書館の窓から

10
2012.10 No.138



「花鳥風月」 金澤 翔子／書

【特集記事】
◆私の一冊　株式会社 ホクギン経済研究所
取締役社長　八子 淳一 さん……３ｐ

◆芸術の秋特集
「描く希望と喜び 若井宣雄の世界」と
「ダウン症の書家 金澤翔子書作展」を紹介 …… ４～５ｐ

館長通信　～若い世代に良寛さんの～

「良寛にはどこか日本人の原型のやうなところ、最後はあそこだといふやうなところがある。」

唐木順三がその著『良寛』の冒頭に記した感慨です。この言葉は時代を越え世代を越えて日本人の共感を呼び、多くの人が良寛さんの和歌や漢詩に、その生涯に想いを馳せるきっかけとなりました。

若い時分、この言葉に触れたとき、脳裏になぜか映画『ゴッドファーザー』のワンシーンが浮かんだのを憶えています。マーロン・ブランド演じる主人公ドン・ビトー・コルレオーネがその最晩年の平穏な一日、屋敷内のトマト菜園で鬼ごっこの鬼になって、ユーモラスな面相をして孫を追いかけるというシーンです。

さて、私の属する昭和30年代生まれの世代は、この唐木順三の感慨に導かれながら良寛さんに親しむことのできたあるいは最後の世代かも知れません。若い世代に良寛さんの、とりわけその漢詩のもつ魅力を、どうしたらうまく伝えることができるでしょうか。

実は良寛さんの漢詩にはキラー・アプリならぬキラー・フレーズがたくさんあります。そのフレーズを耳にした途端、これはもうストーンズ、キース・リチャーズのギター・リフって具合の、シビレるほどにカッコいいキラー・フレーズ。

そういう「耳」で、あらためて良寛さんの漢詩を読み直してみると、その吟遊詩人めいた一面や詩作のダンディズムが伝わって来るような気がします。

いつかこれを自家薬籠中の物にとひそかに夢想していたところ、とうに先を越されていたことを最近知りました。町田康という個性的な作家がいます。彼の随筆や小説のなかには、良寛さんの漢詩のフレーズが実に効果的な形で変奏されています。

若い世代にとっての唐木順三とは、案外、町田康のような作家なのかもしれません。

（品田　満）

文書資料室だより　震災の記録と記憶を後世に　～未来の『長岡市史』へ向けて～

中越大震災の発生から８年。今年も「10月23日」を迎えます。この８年間、文書資料室は災害と向き合って二つのことに取り組んできました。「被災した歴史的資料の救済」と「震災記録の収集」です。これらは、大勢の市民の皆さんの協力により大きな成果を生みつつあります。

前者は、市内の資料所蔵者から92件（段ボール約1,500箱分）の相談を受け付けました。被災資料を整理するために誕生した長岡市資料整理ボランティアの活動は約120回、のべ約1,600人に及んでいます。後者は、市内の学校・コミュニティセンターに訪問調査を行いました。震災の教訓を後世に伝えるため、9,651点の記録を公開しています。

こうした災害対応を進める中、昨年３月11日に東日本大震災が発生しました。未曾有の大災害に直面して、文書資料室が中越大震災の経験をふまえてできることはないか。再び考えて行ったことが、市内に開設された東日本大震災避難所の資料収集です。その結果、被災者向けの掲示物・配布物、避難者への応援メッセージ、避難所へ届けられた被災地の新聞、被災した自治体が避難者へ送ったお知らせなどの震災の記録を集めることができました。

未来の『長岡市史』には、長岡市に避難した東日本大震災の被災者に対して、市民・事業所・ボランティア・行政がどのような支援を行ったかなどが、叙述される可能性があります。

これらの震災記録が、中越大震災像・東日本大震災像の形成のため、様々な学問分野の研究資料として、また、被災者や被災者を支援する皆さんの体験・記憶を補う資料として活用されることを願っています。　（田中　洋史）



▲震災記録の目録カード作成作業

長岡市資料整理ボランティアと文書資料室が協働で行っています。文書資料室所蔵の震災記録の概要はホームページで、資料目録は互尊文庫２階の閲覧室で見ることができます。

私の一冊

株式会社ホクギン経済研究所

取締役社長　八子 淳一 さん



道をひらく
松下幸之助／著
ＰＨＰ研究所

本というと、大学に入学した1972年（昭和47年）の７月を思い出す。何でそんな気持ちになったのか、今になると定かでないが、その月の仕送りが届くや否や、本屋に向かった。

迷った末に買ったのは、マルクスの『資本論』全巻（岩波書店刊の箱入り本）と、当時流行っていた庄司薫の「赤頭巾ちゃん」シリーズ。意気揚々と下宿に帰ってきたが、仕送りが３万円しかないのに、本代に１万円（今の感覚で５万円位か）使ってしまい、その月の生活が悲惨だったことは言うまでもない。

就職してからは、こんな無茶買いはすっかり影を潜め、本というと実務書が中心となってしまっていた。

そんな時に出会ったのが、松下幸之助『道をひらく』。『ＰＨＰ』に連載した短文の中から121篇選んでまとめたもので、時にふれ折りにふれての感慨を綴っている。

ところで、人間が生きていくうえで肝要なことは何なのか。一言でいうと「生きざま」ではないか、と最近とみに思うようになった。人生観といってもいいし、平たく、仕事に対する取り組み方といっていい。

『道をひらく』には人生や仕事に対する、松下幸之助の思いが平易な言葉で綴られており、勇気づけられる。

本文から少し拾ってみる。

・自分には自分に与えられた道がある。自分だけしか歩めない大事な道ではないか。自分だけに与えられているかけがいのないこの道ではないか。

・志を立てよう。本気になって真剣に志を立てよう。命をかけるほどの思いで志を立てよう。

・仕事というものは勝負である。一刻一刻が勝負である。だがおたがいに、勝負する気迫をもって、日々の仕事をすすめているかどうか。

・どんなことからも、どんな人からも、謙虚に素直に学びたい。すべてに学ぶ心があって、はじめて新しい知恵も生まれてくる。よき知恵も生まれてくる。

人生悩むことが多いが、悩むのが人生だと考えると、悩むことも前向きに考えられる気がする。そんな時の指針となってくれるのが、『道をひらく』ではないかと思っている。

余談だが、庄司薫は全部読んだが、『資本論』は未だ積ん読状態にある。



やこ・じゅんいち
1954年　長岡市生まれ
1976年　株式会社北越銀行入行
2006年　融資第二部長
2008年　取締役総務部長
2009年　株式会社ホクギン経済研究所取締役社長に就任

芸術の秋　美術展へ行こう！

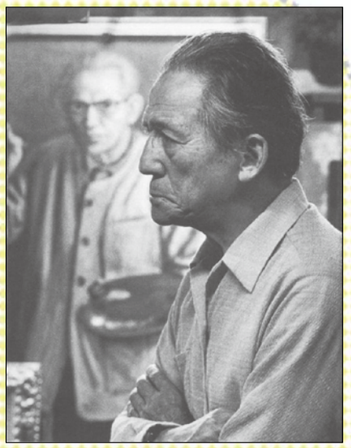
栃尾美術館　描く希望と喜び　若井宣雄の世界

9月15日（土）～11月25日（日）　会期中一部展示替有

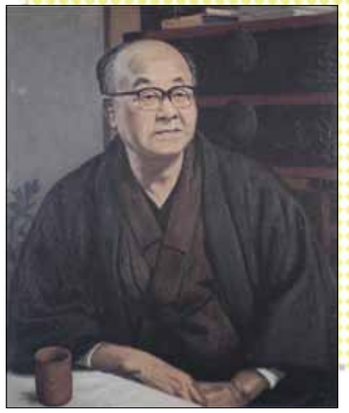
昭和の長岡美術界で活躍した洋画家 若井宣雄。22年ぶりの大規模回顧展が栃尾美術館で開かれています。他に職業を持たず、画家としての生涯を貫いた若井は、在野の画家としては稀有な存在でした。長岡デッサン会や長岡市美術協会、新潟県美術家連盟の設立に関わり、県内美術界の発展や後進の指導・育成に大いに貢献。その一方で肖像画家としても知られ、山本五十六など郷土の著名人を含め2,000人以上を手がけたそうです。

本展では、ご遺族が所蔵される膨大な資料の中から選んだ約120点が出品され、若井の画業を振り返ることができます。ぜひ足をお運びいただき、郷土が生んだ芸術家を再発見してみませんか。。

●会場・お問い合わせ：栃尾美術館　℡0258-53-6300（長岡市上の原町1-13）



在りし日の若井宣雄



若井が描いた松岡譲の肖像画
1970年　カンヴァス・油彩　F20号
※松岡譲…長岡生まれの小説家。
夏目漱石の娘婿。
エッセイスト半藤末利子の実父。

若井宣雄（わかい・のぶお）略歴

1905年（明治38）	柏崎市に生まれる。後に長岡市に移住。画家になることを決心し単身上京。働きながら太平洋画会研究所（後の太平洋美術学校）で中村不折らから絵の基礎を学ぶ。
1924年（大正13）	19歳。創刊当時の美術雑誌『アトリエ』に出品した木炭デッサンで一等入選。
1940年（昭和15）	35歳。紀元二千六百年奉祝美術展入選。（全国1,600点余りの中から72点の厳選入選を果たし話題となる。）戦後は、示現会に所属し会員として出品を続ける。個展の開催やグループ展への参加など多数。長岡デッサン会や長岡市美術協会、新潟県美術家連盟の設立に参加。長岡市展や新潟県展などでも活躍。
1989年（昭和64）	元旦朝 逝去。83歳。

●若井宣雄を知るには…この本がおススメ

『若井宣雄遺作集』若井 綾子／発行（N723ワ）

ご遺族がまとめた貴重な１冊。若井の全貌がわかります。



布張り装丁の表紙▶

長岡市美術センター（中央図書館２階）

ダウン症の書家　金澤翔子 書作展　**9月22日（土）～10月14日（日）**



（約150㎝×800㎝）　翔子さんが揮毫した「長岡大花火」

8月2日の長岡まつりでは、アオーレ長岡アリーナで約1,500人のギャラリーを前に「長岡大花火」の文字を揮毫し、市民を魅了した翔子さん。待ちに待った書作展が、今、中央図書館2階美術センターで開かれています。

翔子さんは、ダウン症という障害を抱えながら、書家である母・泰子さんと二人三脚の大変な努力をされて書の道を歩んできました。その無垢で力強い書は、見る者の心をゆさぶり、多くの感動を呼んでいます。

本展では、ここ2～3年の集大成といえる禅語の屏風大作を中心に、特別企画として当市のために揮毫していただいた「長岡大花火」や、最新作「不死鳥」などを展示。翔子さんの書作展としては、過去最大規模で、大変見ごたえのある内容となっています。魂が込められた作品の数々は必見です。

●会場・お問い合わせ：長岡市立中央図書館　℡0258-32-0658（長岡市学校町1-2-2）



金澤翔子さん



「飛翔」
翔子さんが得意とする言葉の一つ。

●もっと金澤翔子さんの作品を見たいという方に



『魂の書　金澤翔子作品集』
金澤 翔子／書　金澤 泰子／文
清流出版（728.2カ）

母 泰子さんの解説で、翔子さんの書の世界が楽しめます。

金澤翔子（かなざわ・しょうこ）略歴

1985年（昭和60）	東京に生まれ、ダウン症と診断される。５歳で母に師事し、書の道に入る。10歳で「般若心経」を書く。
2005年（平成17）	20歳の記念に、銀座で個展を開催。帝国ホテルで初めて席上揮毫を行う。
2009年～（平成21）	鎌倉建長寺、京都建仁寺、奈良東大寺で個展。書を奉納。
2012年（平成24）	ＮＨＫ大河ドラマ「平清盛」の題字を手がける。

所蔵資料紹介　No.134　　野本恭八郎　書

野本恭八郎（のもときょうはちろう）（1852～1936）は今から160年前、刈羽郡横沢村（現長岡市小国横沢）の大庄屋格山口家に生まれました。後の「互尊翁」の誕生です。野本は、ここ長岡の図書館の基礎となった「互尊文庫」の創立者であり、近代長岡の発展に貢献しました。

野本は少年期、刈羽郡南条（現柏崎市）の三餘堂（さんよどう）で藍沢朴斎に漢学や礼儀を学び、明治５年（1872）20歳で長岡商人の野本家に養子に入り、家業の立て直しをはかります。明治10年（1877）には救世教（ぐぜきょう）の創始者大道長安に出会い、大きな影響を受けました。その後、第六十九国立銀行取締役、新潟県会議員、長岡町学務委員等を歴任し、社会的地位は高まりましたが、家庭においては我が子を次々失うという過酷な試練がおそいかかります。苦悶するなかで唱え続けたのが、この書にある「我人獨尊皆互尊」という考え方でした。それは、広大な宇宙の中でただ一人の自分をまず尊び、それから相手の人権を尊重し、互いに認め合って向上していこうとするものです。

野本は大正４年（1915）大正天皇即位礼を記念して長岡市に寄附を申し出ます。市は同7年（1918）、現在の長岡グランドホテル付近に「大正記念長岡市立互尊文庫」を完成させ、これにより市民の知的好奇心は大いに刺激されました。

互尊文庫創立から94年という歳月がたち、その間、モダンな建物は空襲で焼失するなど紆余曲折を経て今につながります。当時、書物を通して若者に学びの場を与え、人を育てることの重要性を熱心に説いた野本互尊翁。彼のこころざしに思いを馳せ、この力強く決意に満ちた書を御覧ください。　　（小熊よしみ）



越後文学さんぽ　～新潟出身の作家をクローズアップ～

西脇順三郎（にしわき　じゅんざぶろう）　明治27年１月20日－昭和57年６月５日（1894－1982）

昭和期の詩人、英文学者。新潟県生まれ。慶應義塾理財科卒。大正11年（1922）英国に留学。14年英文第1詩集『Spectrum（スペクトラム）』を刊行。翌年慶大文学部教授。昭和３年「詩と詩論」創刊に参加、新詩精神運動（エスプリ・ヌーボー）の中心的存在となる。８年詩集『Ambarvalia（アムバルワリア）』を刊行、評価を歴史的なものにした。戦時中は沈黙するが、戦後『旅人かへらず』（昭22）以下、『近代の寓話』（昭28）、『第三の神話』（昭31）などで全盛期を迎えた。46年文化功労者。

著者紹介：『新潮日本人名辞典』新潮社より



『西脇順三郎コレクション　全６巻』
西脇順三郎／著　新倉 俊一／編
慶応義塾大学出版会
※表紙絵所蔵／小千谷市立図書館

今回紹介する資料は、今年、没後30年を迎えた西脇順三郎の作品集です。５年前に刊行されたこの作品集には、詩、翻訳詩、評論、随筆からなる西脇の代表的著作が収録されています。小千谷市で生まれ育った西脇は、中学時代、日本文学にはほとんど興味を示さず、英語と西洋絵画に傾倒し、英語の本を買い集めました。後に、英語好きが高じて、フランス語、ドイツ語、イタリア語、さらにはラテン語にまで興味は広がります。日本語の詩集が、英語、フランス語の詩集の後に作られたというのも、妙に納得がいきます。　　（徳永　馨）

音　楽

【おんがく】
music

音による芸術。音の長短、高低、強弱、音色などを組み合わせて肉声や楽器で演奏する。
（『大辞泉』小学館より）

クラシック、ジャズ、ロック…ジャンルは様々。聴いたり、歌ったり、演奏したり…楽しみ方も様々。気分を明るくしたり、緊張を和らげたり…効果も様々。

音楽の本も多種多様、秋の夜長にお気に入りの音楽を聴きながら、どっぷりと音楽の世界に浸ってみませんか。



『小沢征爾さんと、音楽について話をする』　小沢 征爾／著　村上 春樹／著　新潮社

著名な指揮者と作家の音楽談義。カラヤンやバーンスタインとのエピソード、ブルースや歌謡曲などクラシックファンならずとも楽しく読める一冊です。



『ジャズと生きる』　穐吉（あき） 敏子／著　岩波書店

1950年代、ジャズの本場アメリカに渡った著者。しかし、その憧れの地は人種や性差別など厳しい現実があり…成功とその裏側を語った世界的ジャズ・ピアニストの自伝です。



『ベートーヴェンの真実』　ラッセル･マーティン／作　ＰＨＰ研究所

ベートーヴェンはなぜ耳が聞こえなくなったのか？ 1994年に遺髪を手にした人物が最新の科学技術を用いてその謎に迫ります。



『宮沢賢治、ジャズに出会う』　奥成　達／著　白水社

大正15年、宮沢賢治は「『ジャズ』夏の話です」と題する詩を発表します。ジャズが一般的でない時代、東北に住む賢治はどのようにジャズに触れたのか？ ジャズの歴史を紐解きます。



『桃山ビート・トライブ』　天野 純希／著　集英社

安土桃山時代を舞台に三味線弾き、笛役者、太鼓叩き、踊り子の４人が一座を結成。型破りな演奏で権力者に立ち向かう、「ロック魂」を感じる時代小説です。



『ジョン・レノン　ラスト・インタビュー』　ジョン･レノン／著　オノ･ヨーコ／著　中央公論新社

音楽を通じ世界平和を訴えた２人。その願いはジョンが亡くなった今も生き続けています。私生活から政治的活動まで赤裸々に語られています。

♪泣いたり笑ったり…青春MUSIC♪

●THE　昭和歌謡

『ひばり自伝』　美空ひばり／著　草思社
『歌謡曲の時代』阿久　悠／著 新潮社
『歌謡曲から「昭和」を読む』なかにし礼／著　ＮＨＫ出版

●バンドやろうぜ！

『1995年のスモーク・オン・ザ・ウォーター』　五十嵐貴久／著　双葉社
『Ｈｅａｒｔ　Ｂｅａｔ』　芦原すなお／著　ほか　ジャイブ
『ぐるぐるまわるすべり台』　中村　航／著　文藝春秋

イベントガイド（10月～12月）　※全て参加無料

【読者のつどい】　互尊文庫１階 児童室　19:00～20:30

テーマの本の感想を話し合い、人生観や文学論などを自由に語り合う会です。

10/26（金）『カブキの日』　小林 恭二／著

11/23（金）『強力伝』　新田 次郎／著（予定）

【子どもの本を読む会】　中央図書館２階 講座室２　10:00～11:30

子どもの本を好きな方が集って感想等を語り合う会です。

10/10（水）『ぼくらシリーズ』　宗田　理／著について

11/14（水）昔話について

12/12（水）おいしい絵本

【映画会】　中央図書館２階 講堂　14:00～（※は10:00～の上映あり）

10/２（火）「ドイツ零年」（1948年イタリア）74分

10/20（土）「めぐみ～引き裂かれた家族の30年～」（2006年アメリカ）88分

「アニメ　めぐみ」（2008年日本）25分

11/11（日）「千の風になって」（2003年日本）107分

11/27（火）「冬のライオン」（1968年イギリス）135分

12/８（土）※アンコール上映「太平洋戦史連合艦隊と山本五十六」（2005年日本）73分

12/18（火）「女だけの都」（1935年フランス）109分

【文化講座】中央図書館２階　講堂　14:00～15:30

①貴重資料公開講座

館所蔵貴重資料の解説を中心に、軸の取扱い方なども予定。

期日:11/16（金）　定員:180名（先着）　講師:本井 晴信さん（元新潟県立文書館副館長）

申込：10/23（火）から中央図書館窓口又は電話、電子申請で受付開始

②「八重の生涯 ―会津落城からの人生転換―」（仮称）

来年のNHK大河ドラマ「八重の桜」の主人公山本（新島）八重についてお話いただきます。

日時：11/25（日）　定員：180名（先着）　講師：小川 幸代さん（長岡大学教授）

申込：11/６（火）から中央図書館窓口又は電話、電子申請で受付開始

図書館ニュース

◆コラボテーマコーナー出現

10月の中央図書館は、新潟県立近代美術館と長岡市立科学博物館とのコラボで２つのテーマコーナーを特設しています。

各館で開催の展覧会テーマに沿って、当館の司書はもとより、各館の学芸員が専門的な目線からお勧めする資料を展示貸出します。近代美術館とのコラボでは、美術書だけでなく文学・音楽など多分野の資料を用意しました。目と耳で芸術の秋をお楽しみください。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

【展覧会情報】

①近代美術館　10/21まで

「象徴派 夢幻美の使徒たち展」

②科学博物館　10/23～11/4

「第61回県下生物標本展示会」

※②の会場は中央図書館２階美術センター

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

【テーマコーナー設置期間】

①「象徴派を知ろう！」

10月末まで（参考コーナー）

②「昆虫はかせになろう！」

10/23～11/4（児童コーナー）

名　称	電　話	休　館　日
中央図書館	32-0658	毎週月曜日（祝日の場合は翌日） 毎月の末日　特別図書整理期間
互尊文庫	35-7981	毎週木曜日（祝日の場合は翌日） 毎月の末日　特別図書整理期間
西地域図書館	27-4900	
南地域図書館	30-3501	
北地域図書館	22-7100	
中之島地域図書館	61-2165	毎週月曜日（祝日の場合は翌日） 毎月の末日　特別図書整理期間
寺泊地域図書館	75-5159	
寺泊地域図書館 大河津地区図書室	0256- 97-2497	
栃尾地域図書館	53-3005	
文書資料室	36-7832	互尊文庫と同じ
栃尾美術館	53-6300	毎週月曜日（祝日の場合は翌日） ※展示替等による臨時休館あり

～～～～ あとがき ～～～～

当館の特色資料の一つである美術図書は、開館以来、選書・収集に努めてきた自慢のコレクションです。約37,500冊もの蔵書数は、地方の図書館としてはめずらしいかも知れません。

秋の夜長には、美しい画集などを眺めてみませんか。　（諏佐 志保）

平成24年10月１日発行
編集・発行　長岡市立中央図書館
住　所　新潟県長岡市学校町1-2-2
編集員　長瀬 貴子　山本 祐子　諏佐 志保　渡辺 雄亮　岩本 純子
メールアドレス　lib@city.nagaoka.niigata.jp
HPアドレス　http：//www.lib.city.nagaoka.niigata.jp
印　刷　北越印刷㈱